

ニヤヤ

高校生が生け花の腕前を競う「花の甲子園」(一般財団法人池坊華道会主催)の四国地区大会が8月18日、高知市で開かれる。県

来月18日 高知市

内から出場する徳島市立高校と徳島北高校の華道部を訪ね、普段の活動を紹介してもらおうとともに、意気込みを聞いた。(田尾聡)

葉が通う。前林さんは季節によって扱う花やメソッドに選ばれた。などを学ぶ。今回は3人

の指導を受け、花材の扱い方や作品のシルエット外部講師で華道家元池坊常任委員の久保佳風さん

に1回で、部員は8人。華道部の活動は2週間

いる。

出せるものを」と考えて良さと和やかな雰囲気だが、「チームワークの作品のテーマは相談中

けた。に仲がよいことから名付

じ」と話す。一本さん

徳島市立「市高花姉妹」

徳島市立高は、部長の「新しい花に出合うたびど、そこが面白い」と魅



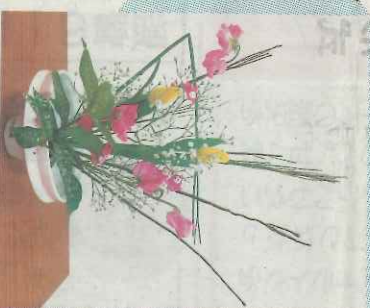
花の配置や向きを相談しながら生け込む(左から)前林さん、山本さん、一本さん(徳島市立高)

花の魅力引き出したい

この日はポンポンキク、スプレーカーネーションなどの花材を使っている。3人がそれぞれ個性的な作品を生けた。山本さんは「凛として引き締まった作風」、一本さんは「油絵を習った経験で培った色彩感覚」、前林さんは「直感を大切にしながら独創性」を前面に出すつもりだ。

昨年と同じメンバーで四国大会に出場し、全員の1年生ながら2位の好成績を残した。「今年は優勝して全国大会を狙う」と声をそろえる。山本部長は「昨年は緊張して戸惑うことも多かった。今回はリラックスして、花の良さを引き出したい」と話した。

がリッチな印象の一本さんの作品



白いポンポンキクを中心に広がりをもたせた前林さんの作品



黄色のスプレーカーネーションを引き出す山本さんの作品

表現力やマナー競う

花の甲子園は、技術や表現力、生け込み中のマナー、チームワークなどを点数化して順位を競う。

1チーム3人で、主催者が用意する自由花指定花器とコンポート、各チームが持ち込むミニチュア花器の3作品を、会場で生ける。主催者が用意する花材と各チームの持

ち込み花材を組み合わせる。四国地区大会には10校が参加し、優勝チームは11月に京都市で行われる全国大会に出場する。